



和田地域交流センター



カローリング講習会

今回のカローリング講習会は、焼津市下和田にある和田地域交流センターで開催されました。これは、令和2年7月24日（金）に藤枝市民体育館で開かれたすこやか健康長寿祭カローリング大会に初参加した焼津市の大漁旗チーム（代表 伊藤恒章氏）の要請で実現しました。

今回は令和2年10月18日（日）10時から約2時間の所要時間でした。和田地域交流センターは建物も立派で、内部の仕様や設備も整っていて、カローリングなどスポーツ活動に配慮したつくりとなっていました。



スコアの説明をする指導員



いよいよゲーム開始

カローリングの特徴は、子どもからシニアまで幅広い年齢層の方が、性別や体力に関係なく気楽に参加できることです。印象としてはカーリングが氷上のスポーツとしたら、カローリングはそのフローリング版といったところでしょうか。それだけに温暖な静岡県民向けスポーツといえるかもしれません。

指導者の岡田行一氏（静岡県カローリング協会会長）も開会の言葉で述べていたように、「目の不自由な方でも、鈴を合図にかなりの精度で的をねらうことができます」というように、ハンディキャップを持った方でも健常者と同じ楽しみ方ができることです。誰もが感動と臨場感が味わえることが人気の理由でしょうか。



ジェットローラを投ずる



カローリングに熱中する参加者

今回は参加者を3つのコースに分けて、さらに各コースを2つのグループに分けてコースごとに競う形で行われました。各グループは3～4人構成で各コースには審判員が付きましました。総勢20名を越える参加者でした。

基本となる得点の数は、投じたジェットローラがCUROLLINGと表示した的の中心をねらい、止まっ

た位置により中心から外側に3点・2点・1点と獲得することになります。同じコースで競ったチームの内一番中心に近いジェットローラを投じたチームのみが得点を獲得できる方法です。

最初のうちは、ジェットローラが右に左に、あるいは短すぎたりオーバーしたりで定まりませんでした。その内に的を捉えることができる参加者の数が増えていきました。



[ジェットローラの表面](#)



[ジェットローラの裏面](#)

ジェットローラを参加者がのぞいていました。表面には番号が記されていました。番号によってグループの区別や投げる順番が分かるようになっていました。

裏返してみました。ジェットローラの底面に装着されているベアリングホイールは、3個ついていて、交換が可能になっていました。説明書によると、通常はストレート用が装着されていますが、ワンタッチでカーブ兼シュート用に交換できるようです。ジェットローラにはレベルアップに対応した仕様も備わっていて、奥の深さを感じました。



[参加者全員で後片付け](#)



[収納方法の説明を受ける](#)

中には「身体が暑くなってきた」と言って上着を脱いで、興味がわいてきたらしく熱くなってプレーしていました。声も盛んに出てきて、「止まれ、止まれ、アレ出ちゃった」と声も盛んになりました。「いいね、いいね、あー味方のをはじきだしちゃった」、とか「うまい、そのいき、そのいき、失速しちゃった」とか、さまざまな声援が飛んでいました。

各グループの参加者がそれぞれ6回ずつジェットローラを投じて、各グループのスコアが計算されて勝敗が決まります。今回はそれを1ゲームとして各グループとも2回行われ、2回目には参加者皆さんの腕が上がっていました。表情からは爽快感と満足感が漂っていました。ゲーム終了後は、参加者全員が後片付けを手伝っていました。



[しずおか健康長寿財団所有のジェットローラ](#)

カローリング講習会及び大会は、静岡県内各地で開かれています。しずおか健康長寿財団も地域社会の輪を広げることのお手伝い、更には中高齢者の健康や生きがいづくりをサポートすべく、積極的に奨励しています。

来たる令和2年11月6日(金)午前9時受付開始で、富士市立富士川体育館において、第2回しずおか健康長寿財団理事長杯カローリング大会を参加費500円で開催する予定です。ご都合のつく方、ご関心のある方は是非お越しください。

取材: 静岡地区担当 生きがい特派員 早川和男